

鶴見良次『イギリスの忘れられた子供の本』（朝日出版社）

2023年12月21日発行

2700円＋税



児童文学史家 M・O・グレンビーは児童文学にもイギリス文学史で言われる「キャノン（正典）」による「偉大な伝統」が形成されてきたと言う。大学の英文学科で児童文学の授業や研究が行われる際に必ず取りあげられる、いわゆる「名作」の歴史である。それに対し、本書が目指すのはそれとは異なるもう一つの「イギリス児童文学史」の試みである。すなわち、いわゆる「名作」として今日まで知られているもの以外に、どのような本が、どのような時代に、どれほど、どのように読まれたかが問いとなる。（中略）それらの忘れ去られた著者の、あるいはその名さえ示されていない文字通り無名の著者の本が、なぜ、当時は多くの子供や大人たちに大好評をもって受け入れられたのか。その問いに答えることが本書の目的である。（「序論」より）

著者紹介

鶴見良次（つるみ・りょうじ）

筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得満期退学。ケンブリッジ大学ダーウィン・カレッジ客員研究員などを経て、現在、成城大学文芸学部英文学科教授。博士（文学）。英語・イギリス文学専攻。著書に『マザー・グースとイギリス近代』（岩波書店、日本児童文学学会特別賞）、『イギリス近代の英語教科書』（開拓社）、『世界・日本 児童文学登場人物辞典』（項目執筆、玉川大学出版部）、*The Cambridge Guide to Children's Books in English*（項目執筆、Cambridge University Press）ほか。